



稲荷坂遠景

中村橋から平楽に上がる

横浜市南区、

2024年1月

能登半島地震の「想定外」

阪神淡路大震災(一九九五年)、東日本大震災(二〇一一年)、熊本地震(二〇一六年)と大地震災害が連続。その教訓を生かして、政府は対策を準備していた筈。

ところが能登半島地震後数日経っても携帯は通じず、道も通行不能で何の連絡も出来ない集落が幾つもあった。もし、地震で原発事故が起きて避難が必要でも連絡できない。

4mも地盤が隆起

輪島の海岸段丘を見ると過去六千年に二〜三mずつ隆起。今回は一挙に4m隆起。過去六千年に無かった大隆起。どの地震学者にとっても想定外の地震学者にとっても想定外。石川県、福井県には志賀原発始め沢山の原発がある。地盤が4m隆起したら、原発は海から冷却水を取り入れられず、たちまちメルトダウンだ。日本海溝では東日本大震災

の時、断層の片側が六十m持ち上げられ、先端が崩落。二六mの崖となつていているのが昨年末に見つかった。

これらの地盤変動は原発の設計時には想定外。原発の安全審査は色々な「想定」が前提。その「想定」を超える事態が起きる事を「想定」すると、原発を稼働して良いのかと思う。

原発災害時の避難は

避難住民の衣食住が大変なことは東日本大震災で良く分かり準備できた筈。それなのに政府の動きは余りにも遅い。もし東南海地震が起きたら静岡県から四国や宮崎県まで被害が及ぶと想定されている。被災人口は今回の十倍以上。あるいは首都直下型地震が起きたら被害はそれをも超えるだろう。今回の政府の対応を見ると背筋が凍る思いがする。

六〇二号では稲荷坂を坂上から描いた。すると「一体どこ

の坂？」との質問が相次いだ。

この稲荷坂、実は永田南の丘から見える。

絵の中央、左下がりの坂が稲荷坂。坂を登り切った右の枯草で覆われた斜面とその上が米軍住宅地だった。最早誰も住まず、一度返還の合意ができたが、何故か「日米共同使用」となったとか。横浜市立大学病院をここに移転する計画

があるがどうなるか？

この絵の右側の急峻な崖は、根岸湾と大岡川を結ぶ堀割川を開削した時できたもの。

開港で急速に発展した横浜。根岸湾に停泊した船と、桜木町から中華街にかけての横浜の中心部の間の貨物輸送は舟。その便を図るのが急務だったのだ。

右端に見える三つの塔は、根岸森林公園にある旧根岸競馬場の一等馬見席。

